

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名: 「時計仕掛けのローレライ」

テーマ: 「色白なのに、真っ黒な美少女」

キャラクター

75

ストーリー

72

テーマ(設定)

75

文章力

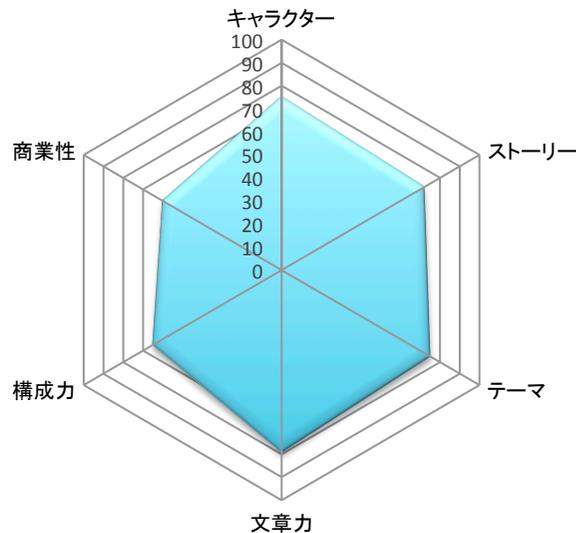
79

構成力

65

商業性

60



・細かな点

○ 肌寒い街、石畳に並ぶ椿、パン工場の薪の音、バター焼ける甘い匂い、など五感をフルにつかった物語世界の描写が美しくとても想像もしやすい。+2

× 序盤一瞬ルカが誰か分からない。『彼は自分の名前を書かれた垂れ幕に、両手を大きく振って応える。「おはよう、ルカ!」とあるので、読者によっては一瞬少年が少女をルカと呼び手を振っている勘違いし、読み直すことになる可能性がある。冒頭の物語世界への誘導が巧みなだけに、ここで読者に「ん?」と足止めをするきっかけを与えてしまうのは少しもったいない。

△ リタが丘に上がり天国に向かって途中のルカを迎えに行くまでの描写が詳しく書き込まれすぎていて逆に物語の勢いを殺してしまっている(「ルカ、待っててね……」から、「リ、リタ……? どうして、きみが……?」まで)。物語の冒頭などは読者に情報を与えるために描写が深く書き込まれていて良いのだが、このようなクライマックスのシーンでは読む側としては「次にどうなるのが早く知りたい」と思っている+特にそこまで描写しなくても読者の方で勝手にそのシーンを想像していることが多いため、描写を深く書き込まない方がむしろ物語はスムーズに進行する可能性が高い(一方で、このような詳しい描写があった方がクライマックスとして盛り上がりを感じると感じる読者もいる。特に女性の方がそう感じる傾向にあると個人的には思う。この作品を誰に向けて書くかによりけりかもしれない)

△ 「時計仕掛けのローレライ」という題名の意味が最後に明らかになるという点が非常に面白い。しかしローレライの意味を知らない方にとってはこの題名の面白さを理解できないというのが非常にもったいない。いっそ作中のどこかで一度ローレライ伝説の話に触れておき、最後の一文を「虹の音色に合わせ、踊るたくさんの人形達。その中心で、亜麻色の髪の少女が楽しそうに歌うのを見届けながら」から、「虹の音色に合わせ、踊るたくさんの人形達。その中心で、時計仕掛けのローレライが楽しそうに歌うのを見届けながら。」等に変えることで、伏線が回収されたと感じることのできる読者数を増やす+読者の気持ちよさを増幅させることはできないか?

総評

作者様の才能(?)として、一文にインパクトをもたせ、且つその一文で作中で効果的なタイミングで出す力があるように感じられる。『耳が聞こえない代わりに、ルカには不思議な力がある。』など、ふとした一文なのに読んでいて物語に引き込まれていった。また全体に渡って表現力が巧みであり、教科書にのっけいそうな美しく清潔な物語であり読感も良かった。ただ商業的な意味合いからすると、少しストーリーが潔癖性過ぎるため、これに加えあと少しだけ「くすっ」とくるようなエンターテインメント性や少しばかりの毒つけを含められればより商業的に小説として多様な面白さのある作品になったのではないかと感じる。(ちなみに、この作品は既に他サイトに一度掲載されている作品のようなのですが、著作権的な意味で大丈夫でしょうか?^^)

合計加点ポイント: 2

総得点: 426 / 600

B方式総合得点: 30446 点